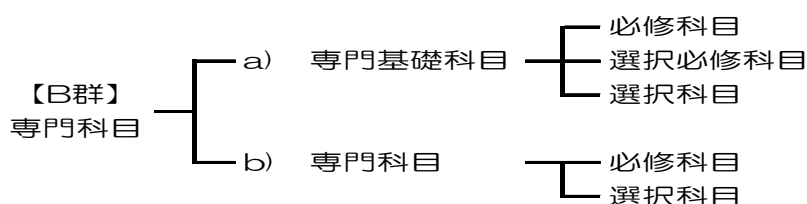


《2016年(平成28年)度入学生用》

〔建築学部〕まちづくり学科

School of Architecture
Department of Urban Design and Planning



■まちづくり学科 カリキュラムの編成

建築学部のカリキュラムは1・2年次と3・4年次に分かれている。1，2年次において，A群「総合教育科目」とB群「専門科目」a)専門基礎科目を学習することによって建築学の基礎的な諸分野を広く網羅的に学び，技術者として必要とされる基礎的教養科目と，建築技術者に必要とされプロフェッショナルとして備えるべき専門的知識の基礎を身につける。

1，2年次の教育により建築の多様性を早い段階で理解したうえで，3年次からは，より高度できめ細かな学科独自のカリキュラムを学びはじめる。3，4年次のB群「専門科目」b)専門科目は，建築技術者として必要とされる専門知識を学ぶ学科独自の専門科目群で，各学科，教育目標によって異なる応用的で多様な科目が細かく設定されている。これらは同時に，他学科とも相互に関連していることは留意しておいてほしい。

4年間の勉学の集大成として，自己学修能力を高め，社会での知識や技術の適用を確実にするために「卒業研究」を行う。「卒業研究」では，学生が自己の適性と将来の進路等を踏まえ，指導教員と相談の上で，「制作」または「論文」を行う。

■3年次科目履修条件，卒業研究着手条件および卒業条件

本学では，4年生までは在籍年数ごとに「学年は上がって」いく（在籍1年目は1年生，2年目は2年生，3年目は3年生，4年目は4年生となる）。これは修得単位数や，3年次科目履修条件・卒業研究着手条件の充足にかかわらず。ただし，3年生以上でも3年次科目履修条件を満たさねば3年次担当科目を履修できず，卒業研究着手条件を満たさなければ「卒業研究」を履修できない。これらの条件は3学科共通である。詳細は「履修規定と履修上の注意」を参照すること。

■まちづくり学科への配属について

建築学部では，3年次科目履修条件の充足・未充足や休学期間の有無などにかかわらず，在籍3年目に，各学科へ配属される。まちづくり学科に配属された学生は，以降，まちづくり学科のカリキュラムを学習する。学科配属手続きの詳細については，1，2年次に開催するガイダンスや説明会のほか，キューポートや掲示等で周知する。配属学科は本人の希望と成績により決定される。

なお，社会における専門分野の横断的な繋がりを踏まえた深化が生じることを踏まえ，研究室登録手続きを経て履修が決定する3年後期「建築セミナー」と4年通年「卒業研究」は，所属する学科に限ることなく，建築学部のすべての研究室を希望することができる。研究室登録手続きの詳細については，ガイダンスのほか，キューポートや掲示等で周知する。

2016年(平成28年)度入学生用 まちづくり学科 履修フロー

カテゴリー 授業のねらい	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
a) 総合文化科目	建築ロジカルライティングⅠ(2) または 総合文化アカデミックスⅠ(2) 美術A(2)	総合文化アカデミックスⅡ(2) 建築ロジカルライティングⅡ(2) 美術B(2)	(第1類)人間の探求(2)×12科目、(第2類)社会の科学(2)×15科目、(第3類)世界と日本(2)×12科目、(第4類)芸術と表現(2)×10科目、(第5類)科学と文明(2)×11科目					
b) 自然科学系科目	基礎数学(2) または 微分積分(2)* 情報処理入門(2)	微分積分(2)* 微分積分(2)* 物理学概論A(2) 化学概論(2)	自然科学系選択科目(2)×8科目					
c) 外国語科目	Basic English I (1) Basic Communication I (1)	Basic English II (1) Basic Communication II (1)	Basic Academic English I (1)	Basic Academic English II (1)	コミュニケーション科目(1)×10科目、 応用英語(2)×19科目、 第2外国語(2)×9科目			
d) 保健体育科目	身体・運動科学演習(2)	生涯スポーツA(1) 生涯スポーツB(1)			生涯スポーツC(1)			
e) 自由研究科目	自由研究科目(2)×15科目 + (4)×4科目							
f) キャリア支援科目	キャリアデザイン(2)							
a) 専門基礎科目	建築入門 基礎設計・図法(2) 都市デザイン(2) 構造力学Ⅰ(2) 建築構法(2) 設備計画(2) 社会貢献学入門(2) 防災学入門(2)	建築概論 建築設計Ⅰ(2) 建築計画Ⅰ(2) まちづくり論(2) 西洋建築史(2) 建築材料(2) 環境工学Ⅰ(2) 建築材料(2) 環境工学Ⅰ(2)	建築設計Ⅱ(2) 建築計画Ⅱ(2) 都市計画(2) 近代建築史(2) 構造力学Ⅱ(2) 環境工学Ⅱ(2)	建築設計Ⅲ(2) 建築計画Ⅲ(2) ラッド・スカーデザイン(2) 日本建築史(2) 建築法規(2) 建築施工(2) 建築設備工学(2) 環境工学Ⅱ(2) 建築設備工学(2)	キャリアデザイン(2)	まちづくり演習(2) 建築情報処理Ⅰ(2) 建築学特別講義(2) 学外研修(2) イギリス留学準備英語(1) 都市空間調査法(2) 現代まちづくり論(2) 都市空間デザイン論(2) 環境植栽学(2) 地域の安全(2) 地震工学(2) 建築環境計画(2) 地域住環境計画(2)	建築・まちづくり演習(3) 建築情報処理Ⅱ(2) 建築セミナー(2) イギリス留学まちづくり建築法(3) イギリス留学建築計画(2) イギリス留学建築デザインA(2) イギリス留学建築デザインB(3) 都市交通計画(2) まちづくり経済学(2) 都市環境デザイン史(2) 都市環境デザイン史(2) 緑地環境計画(2) 建築の安全(2) 災害危機管理(2) 環境評価法(2) 建築音響(2)	建築総合演習(3) 卒業研究(8) 環境生態学(2) 都市設備(2)
	※構造基礎実験、材料実験、環境基礎実験、測量実習は1科目のみ履修可		又は 減災学入門(2) → 減災学入門(2) 建築技術者の倫理(2)					
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>必修科目</p> <p>1年次指定選択必修科目</p> <p>選択必修科目</p> <p>選択科目</p> </div> <div> <p>共通科目</p> <p>都市デザイン科目</p> <p>専門科目</p> <p>デザイン科目</p> <p>安全・安心科目</p> <p>環境共生科目</p> <p>その他</p> </div> </div>							
	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>→ 前期または後期</p> </div> </div>							
	<p>学科の3年次科目履修条件、卒業研究着手条件、卒業条件に従い、上記以外の科目を履修することができる</p>							

〔建築学部〕

まちづくり学科 専門基礎科目・専門科目

2016年(平成28年)度入学生用

・○印は必修科目、△印は選択必修科目、□印は必修科目、無印は選択科目

・「教職」欄に教科名・印が付してある科目は、教員免許状取得に必要な科目を示す。●印は必修科目、教科名のみは選択科目。

「高校一種(工業)」の免許取得希望者は上記以外に、他学科開講科目で教職必修科目があるため詳細は入学年度の「教職課程の手引」を確認すること。

専門基礎科目

○印=必修科目、△印=選択必修科目、無印=選択科目

区分	種別	科目名	単位数	標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)								教職	学位授与の方針					備考	
				1年		2年		3年		4年			1	2	3	4	5		
				前	後	前	後	前	後	前	後								
【B群】 専門科目 a) 専門基礎科目		建築入門	2	1								○	◎						
		建築概論	2	1								●工業	○	◎					
	○	基礎設計・図法	2	2								工業		◎					
	○	建築設計Ⅰ	2		2							工業	○	○	○	◎			
	○	建築設計Ⅱ	2			2						工業		○	○	○	◎		
	○	建築設計Ⅲ	2				2					工業		○	○	○	◎		
	○	建築計画Ⅰ	2		1							工業	○	◎					
	○	建築計画Ⅱ	2			1						工業	○	◎					
	○	建築計画Ⅲ	2				1					工業	○	◎					
	○	西洋建築史	2		1							工業	○	◎					
	○	近代建築史	2			1							○	◎					
	○	日本建築史	2				1					工業	○	◎					
		都市デザイン	2	1								工業	○	◎					
		まちづくり論	2		1							工業	○	◎					
		都市計画	2			1						工業	○	◎					
		ランドスケープデザイン	2				1					工業	○	◎					
		構造力学Ⅰ	2	1								工業	○	◎	○				
		構造力学Ⅱ	2			1						工業	○	◎	○				
		構造力学演習Ⅰ	1		1							工業	○	◎	○				
		構造力学演習Ⅱ	1				1						○	◎	○				
		○ 建築の構造	2				1					工業		◎		○	○		
		○ 建築構法	2	1								工業	○	◎					
		○ 建築材料	2		1							工業	○	◎					
		○ 建築施工	2				1					工業	○	◎		○			
		○ 設備計画	2	1								工業		◎					
		○ 環境工学Ⅰ	2		1							工業	○	◎	○	○	○		
		○ 環境工学Ⅱ	2			1						工業	○	◎	○				
		○ 建築設備工学	2				1							◎			○		
		○ 建築法規	2				1					工業	○	◎		○			
		△ 構造基礎実験	2			2						工業	○	◎				○	これらのうち、いずれか1科目 2単位の修得を必要とする。
		△ 材料実験	2			2						工業	○	○	◎	○	○		
	△ 環境基礎実験	2			2						工業	○	◎						
	△ 測量実習	2			2						工業	○	◎	○					
		建築技術者の倫理	2				1				工業		○		◎				
		社会貢献学入門	2	1								○	◎	○	○	○			
		減災学入門	2		☆	または	☆						◎		○	○	注1)		
		小計	70																

注1) 夏期集中

・○印は必修科目、△印は選択必修科目、□印は必修科目、無印は選択科目

・「教職」欄に教科名・印が付してある科目は、教員免許状取得に必要な科目を示す。●印は必修科目、教科名のみは選択科目。

「高校一種(工業)」の免許取得希望者は上記以外に、他学科開講科目で教職必修科目があるため詳細は入学年度の「教職課程の手引」を確認すること。

専門科目

○印=必修科目、無印=選択科目

区分	種別	科目名	単位数	標準履修学年と毎週授業時限数 (コマ数)								教職	学位授与の方針					備考		
				1年		2年		3年		4年			1	2	3	4	5			
				前	後	前	後	前	後	前	後									
【B群】	共通科目	○ まちづくり演習	2					2						○	○		○	◎		
		建築・まちづくり演習	3							3						○	◎	○	○	
		建築総合演習	3								3					○	◎	○	○	
		建築情報処理Ⅰ	2					2								○	◎		○	
		建築情報処理Ⅱ	2						2							○	◎		○	
		建築学特別講義	2					1						○	◎			○		
		建築セミナー	2						2						○	◎	○	○		
		学外研修	2						☆											注1)
		イギリス留学まちづくり調査法	3							★						◎	○	○	○	
		イギリス留学建築計画	2								★					◎	○	○	○	
		イギリス留学建築デザインA	2								★					◎	○	○	○	
イギリス留学建築デザインB	3								★					◎	○	○	○			
イギリス留学準備英語	1					1								◎	○	○	○			
○ 卒業研究	8									☆				○	○	◎				
b)	都市デザイン	現代まちづくり論	2					1					○	◎						
		都市空間調査法	2					1					○	◎						
		都市交通計画	2						1				○	◎						
		まちづくり経済学	2						1				○	◎						
	ランドスケープ	都市空間デザイン論	2					1					○	◎						
		環境植栽学	2					1					○	◎						
		都市環境デザイン史	2						1				○	◎						
		緑地環境計画	2						1				○	◎						
	安全・安心科目	環境生態学	2							1			○	◎						
		地域の安全	2					1						◎						
		建築の安全	2						1					◎						
環境共生科目	地震工学	2					1			工業	○	◎	○	○	○					
	災害危機管理	2						1					○	○	◎					
	建築環境計画	2					1				○	◎	○	○	○					
	地域住環境計画	2					1			工業	○	◎	○	○	○					
	環境評価法	2						1			○	◎	◎	○	○					
小計	建築音響	2						1				◎								
	都市設備	2							1		○	◎			○					
小計			73																	
※	職業指導	4								1	1	●工業							※印の科目は教員免許状取得に必要な科目であって、『卒業の必要な単位数』に算入することはできない	

B 群 合 計	147														
---------	-----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

配当学年・学期は変更することがある。また、年度により科目を開講しないことがある。

注1) 夏期集中

◇建築学部3学科共通年次の履修規定と履修上の注意〔第1部 2016年(平成28年)度入学生用〕

I 履修規定(建築学部全学科共通)

「3年次科目履修条件」について

本学では4年生まで自動で年度ごとに1学年進級し、一般にいわれる「留年」という制度はない。しかし、3年生、4年生になっても「3年次科目履修条件」を満たさなければ、新宿キャンパスの3年次、4年次配当科目を履修することはできない。その条件は以下の2点で、2点ともに満たさなければ「3年次科目履修条件判定」に合格できない(下表1参照)。

- 1) [B群]専門科目a)専門基礎科目(1,2年次配当)の必修科目(全40単位)と選択必修科目(2単位)、合計42単位のうち、36単位以上を修得する(ただし選択必修科目(構造基礎実験、材料実験、環境基礎実験、測量演習)は1科目2単位しか履修できない)。
- 2) [A群]総合教育科目と[B群]専門科目から、合計62単位以上を修得する[1)の単位も含む]。62単位以上修得しても、1)を満たさなければ「3年次科目履修条件判定」に合格することはできない。

「3年次科目履修条件判定」は2年後期末に実施される。この時に条件を満たせない場合は、各年度の前期末と後期末に判定される。なお、3年前期末、4年前期末に本条件を満たした場合でも、その年度後期に開校される「建築セミナー」は履修できない。

「卒業研究着手条件」について

本学を卒業するには「卒業研究」(4年通年科目)8単位を修得しなければならず、「卒業研究」を履修するためには「卒業研究着手条件」を満たす必要がある。その条件は以下の7点である(表1も参照すること。なお各条件にある「単位数」は1年生からの累計修得単位数のことである。)

[A群]総合教育科目に関わる条件

- 1) a)総合文化科目「1年次指定選択必修科目」(下表2参照)4単位以上を修得する。
- 2) b)自然科学系科目「1年次指定選択必修科目」(下表2参照)4単位以上を修得する。
- 3) c)外国語科目・必修科目6単位すべてを修得する。
- 4) d)保健体育科目・必修科目2単位すべてを修得する。ただし、上限は5単位である。

[B群]専門科目に関わる条件

- 5) 1,2年次配当のa)専門基礎科目・必修科目40単位すべてを修得する。
- 6) a)専門基礎科目・選択必修科目2単位を修得する。なお選択必修科目は1科目しか履修できない。

修得総単位数に関わる条件

- 7) [A群]総合教育科目、[B群]専門科目から合計100単位以上修得する[上記1)~6)の単位も含む]。なお100単位以上修得しても1)~6)を満たさなければ「卒業研究着手条件判定」に合格できない。

「卒業研究」は4年次通年科目のため、「卒業研究着手条件判定」は3年後期末に実施される。この時条件を満たせない場合は、各年度の後期末に判定する(「卒業研究」は通年科目のため、前期末には実施しない)。

「卒業条件」について

本学を卒業するためには「卒業条件」を満たさなければならない。その条件は以下の8点である(下表1参照。ただし、「卒業研究着手条件」ですでに3)と5)は満たしているため、実質は6点になる。なお各条件にある「単位数」は1年次からの累計修得単位数のことである)。

[A群]総合教育科目に関わる条件

- 1) a)総合文化科目、b)自然科学系科目を併せて24単位以上修得する(「1年次指定選択必修科目」含む)。
- 2) c)外国語科目を8単位以上修得する(必修科目6単位含む)。
- 3) d)保健体育科目・必修科目2単位を修得する。(「卒業研究着手条件」で条件を満たしている)
なお卒業単位に認められる上限は5単位である。

[B群]専門科目に関わる条件

- 4) 1,2年次配当のa)専門基礎科目・必修科目、3年次配当のb)専門科目・必修科目の合計42単位

すべて修得する。

- 5) a) 専門基礎科目・選択必修科目 2 単位を修得する。(「卒業研究着手条件」で条件を満たしている)
- 6) 選択科目を 30 単位以上修得する。この中には、建築学部他学科 3・4 年次配当の選択科目を 14 単位まで含めることができる。
- 7) 4 年通年科目「卒業研究」8 単位を修得する。

修得総単位数に関わる条件

- 8) [A 群]総合教育科目、[B 群]専門科目から合計 124 単位以上を修得する(上記 1)～7)の単位も含む)。
なお、124 単位以上修得しても、1)～7)を満たさなければ卒業できない。

「卒業判定」は 4 年後期末に実施される。この時に条件を満たせない場合は、条件を満たすまで各年度の前期末と後期末に判定する。

表 1 3年次科目履修条件、卒業研究着手条件、卒業条件

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業研究着手条件 (注1)	卒業条件 (注2)
[A群] 総合教育科目	a) 総合文化科目		1年次指定選択必修科目4単位 (表2参照)	合計で24単位 (a)総合文化科目, b)自然科学系科目の 1年次指定選択必修 科目各4単位を含む)
	b) 自然科学系科目		1年次指定選択必修科目4単位 (表2参照)	
	c) 外国語科目		必修科目6単位	8単位(必修科目6 単位を含む)
	d) 保健体育科目		必修科目2単位 (上限5単位)	2単位 (必修科目2単位, 上限5単位)
	e) 自由研究科目			
	f) キャリア科目			
[B群] 専門科目 a) 専門基礎科目 b) 専門科目	必修科目	必修科目・選択 必修科目合わせ て36単位	1,2年次配当の すべての必修科目 40単位	1,2,3年次配当の すべての必修科目 42単位
	選択必修科目		2単位	2単位
	選択科目			30単位
	卒業研究			8単位
合計		62単位	100単位 ^(注1)	124単位 ^(注2)

(注1) 本条件 1)~6)を満たすために必要な最小単位数は、[A群]総合教育科目、[B群]専門科目を合計して58単位となる。条件7)「合計単位数100単位」との差、42単位については、各自で卒業に必要な単位数や将来の専門分野などを考慮して計画的に修得すること。

(注2) 本条件 1)~7)を満たすために必要な最小単位数は、[A群]総合教育科目、[B群]専門科目を合計して116単位となる。条件8)「合計単位数124単位」との差、8単位については、[A群]総合教育科目、[B群]専門科目、他学科科目から自由に修得できる。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期終了時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	有
卒業論文着手	無
卒業	有(学則の定めにより)

※「3年次科目履修条件」を満たしていない者が、次の判定の時期に「卒業論文着手条件」を満たした場合、卒業論文に着手することができる。

表2 1年次指定選択必修科目

	1年生前期	1年生後期
総合文化科目	建築ロジカルライティングⅠ または 総合文化アカデミックスキル	総合文化アカデミックスキル 建築ロジカルライティングⅡ
	美術 A	美術 B
自然科学系科目	基礎数学* または 微分積分Ⅰ*	微分積分Ⅰ*
		微分積分Ⅱ*
	情報処理入門	物理学概論A 化学概論

*基礎数学、微分積分Ⅰ、微分積分Ⅱの中から複数科目修得しても、すべて卒業単位とはなるが、1年次指定選択必修科目として認められるのはそのうちの1科目のみである。

II カリキュラムの経過措置と再入学生、編入学生に対する取扱い

- (イ) 学生には、入学年度のカリキュラムが適用される。
- (ロ) 今後、カリキュラムが改変された場合、入学年度のカリキュラムにない専門科目の単位修得は「建築学部科目変遷表」(『履修の手引き』に掲載)によって認定される。また、「建築学部科目変遷表」において、入学年度のカリキュラムの専門科目と、それに対応する新カリキュラムの専門科目は重複履修できない。名称が異なっても、対応科目に設定されていれば、同様に重複履修できない。
- (ハ) 再入学生、編入学生には、再入学、編入学年次に該当するカリキュラムが適用される。
- (二) 編入学生に対する特別措置として、工学部第2部建築学科の開講科目のうち、予め許可された科目を履修することで、建築学部の科目履修に代えることができる。詳細は『履修の手引き』などで別途定める。

III 履修上の注意

- (イ) 3年次に進級する際、まちづくり学科、建築学科、建築デザイン学科への所属が決定する(休学期間の有無や3年次科目履修条件を充足している・いないに関わらない)。各学科必修科目「まちづくり演習」、「建築演習」、「建築デザイン演習」は重複履修できない。また、所属学科で修得した科目と同一名称の建築学部他学科科目は重複履修できない。
- (ロ) 3年後期「建築セミナー」と4年通年「卒業研究」は研究室登録手続きを行った上で、研究室に所属しないと履修できない。研究室登録手続きの詳細については建築学部掲示板などで周知する。
- (ハ) 履修上の注意については、『履修の手引き』の他、建築学部掲示板やキューポートなどで指示する。